

## 事業所における自己評価結果

事業所名		Yくまーず未来 三河安城		公表日		2024年 12月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		個室をうまく利用して、人数が多い時にはグループに分けて活動を行うなどの工夫をしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		子どもに合わせてイス・机の高さの調整などできる範囲で行っている。 その時の状況に合わせてになるが、学習や遊び方などによって部屋を分けるなどの対応をしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	活動中に子どもと一緒に片付けを行うように心がけている。	活動後の片付けを日々意識して清潔面にも気をつけたい。 子供と一緒に取り組めるような仕組みを考えたい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		部屋を分けることで集中しやすくなったり、落ち着いて取り組めるよう工夫している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		月に1度の職員会議で課題を取り上げ、振り返り、次の課題設定を行っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		月に1度の職員会議で話し合う機会を設け、意見を出し合っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	6		事業所内で必要に応じた研修を行っている。	受け身な受講だけにならないよう、各自が調べて発表をしたり、能動的に外部の研修の受講など学ぶ姿勢を持つようにしていきたい。	
適	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			現在作成中。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		色々な視点でのアセスメントになるように気をつけて行っている。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1	必要に応じてS-M社会生活能力検査を使用したり、JMAPなどの検査を参考にしたり、行動観察により、確認している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等サービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			ガイドラインが新しくなっている。職員みんなで見合わせを行うなど、共通の認識がもてるようにしたい。	

切 な 支 援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		スタッフで役割分担しながら協力して行っている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		季節や子どもの発達段階、興味・関心に合わせて、楽しめるプログラムを企画している。	同じ活動でも提供の仕方によって目的を変えたり、より楽しいものにしたり、難易度を変えたりしていく。活動を進行する力をつけていきたい。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別で取り組むことが必要な場合・課題には個別で取り組むなど柔軟に対応している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		それぞれの子どもについて、確認する時間を設けている。	休日や長期休暇の際に時間が取れなくなることがあるので、やり方を検討したい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	2		スタッフ間でフィードバックをしているが、十分でないので、振り返りの時間を設けて、次回以降に活かせるようにしていきたい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		事象の前後を含めて、出来事を正確に把握できるように、利用者を見るように意識している。	どの職員もできるよう、研修・実践を重ねていきたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	5			職員みんなが理解して取り組めるように確認する機会を設けたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		日々の関わりの中で、子どもの話を丁寧に聞くように気をつけている。子どもに合わせた、表出の仕方を探り実践している。	
	関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		
27		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
28		学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		保護者を通して行なっている。必要な場合はケース会議などに参加して情報共有を行なっている。	
29		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	1		
30		学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		6		まだ卒業した方がいない。今後、必要になれば情報提供を行う。
31		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		5		
32		放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	児童館、公民館や近くの公園に遊びに行き、地域の子どもたちと一緒に遊ぶこともある。	
33		（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	1	5		
34		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時にできるだけその日の様子を伝えるようにしている。支援記録を丁寧に書くことで伝えるようにしている。	
35		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	作業療法士が中心となって通信を不定期で発行している。また日々の支援記録の中で、特性に合わせた関わりなど事業所で行っていることを記載しているので家庭でも取り入れてもらえたら、と思う。	保護者向けの研修の実施を考えている。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	1	クリスマス会や夏祭り、遠足などの家族参加の活動を行っている。	要望があれば、対応を検討したい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月活動予定を発行している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		職員一人一人が特性や対応法について学び、相手に伝わる、相手の意思を受け取れるようにしていく。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		まずは事業所内での活動を定着してから、目的や効果などを検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	1	子どもの情報を必要に応じて確認するようにしている。 子どもの情報をスタッフ全員が確認できる場所に保管・記入している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	3	3	現在、特に注意の必要な子供はいないが、必要に応じて保護者と連携を図って対応していきたい。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	1		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		研修を行うほか、対応に困るケースについては随時職員間で話をして対応を検討している。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6				